

鳥取 YEG 通信

TOTTORI
YOUNG
ENTREPRENEURS
GROUP

発行：平成29年6月15日
鳥取商工会議所青年部
総務広報委員会

鳥取商工会議所青年部通信

6

June 2017

■平成29年度 会長あいさつ



鳥取商工会議所青年部
会長 福田 通拓
株式会社 インテリア
フクタ

紫陽花が大輪の花を咲かせる頃となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。梅雨の時期に入りジメジメした日が続いています。梅雨という言葉は「露(つゆ)」から変化したとか、カビで食物が「費(つい)ゆ」から生まれたなど諸説がありますが、やはり「梅の実が熟す時期の雨」という説が語源としては有名で、中国でも同じように使われているそうです。梅は漬け込むと梅干しになり、翌年には食材となります。梅干しは疲労回復に効果があるようです。体調に気を付けてこの梅雨を乗り切りましょう。

さて、5月の例会は会員交流増強委員会が担当しました。この委員会は会員間の交流を活発にし、結束力を高め、更なる新しい価値を創出するために会員の増強を目的としています。5月の例会を担当するにあたり、3月から会員間の交流と結束力の強化をテーマに何度も委員会を開いて協議していきまし。まずは各委員会の新入会員数名が自己PRを行い、次にゲーム形式での交流です。初めての試みであり、最初はどのような感じか戸惑うところもありましたが、時間がたつにつれて笑い声や会話が飛び交う和やかな雰囲気になりました。例会最後の監事所感で田中監事から「今までこんなに笑顔があふれた例会があったでしょうか」と励ましの言葉が

ありました。普段顔を合わせていてもなかなかお互いを知る機会が少ないものです。今回の例会で今まで以上に会員間の距離感が縮まったと思います。これからもお互いの絆を深めて会員間の結束力を高めていきます。

また他団体との交流も行っています。今月初となる鳥取市青年3団体によるサッカー交流戦を3団体で企画いたしました。青年会議所と青年中央会とスポーツでの触れ合いでしたが、勝敗は別としてお互いを知る良い機会となり、懇親会では初めてお会いする方々とサッカー談話や地域の話に花が咲き、大変盛り上がりしました。このように鳥取の中で色々な方々と触れ合い、友好を深めていくことも活性化のために必要なことだと思っておりますので、今後も積極的に取り組んでまいります。

5月31日には企画運営委員会がオープン委員会として開かれた「星取県」についてグループ討論会を行いました。私たち青年部が昨年からの星取県を発信し機運が高まる中、更なる魅力発信・理解浸透・素材発掘に知恵を出し合いました。この「星取県構想」は単年度で考えるのではなく、数年後の姿も描きながら進めていきたいと考えています。

また、毎年恒例の袋川の除草作業にも参加しました。この活動は袋川をはぐくむ会からの協力要請を受けて毎年行っているものです。とてもしっかりと生えていました。多くの参加者の皆さまと作業を行い、約2時間余りで見違えるような光景になりました。作業を終えた皆さんの顔もスッキリとした笑顔でした。袋川を通る人々にもこの爽快感が伝わると幸いです。

われわれ商工会議所青年部はこれからも豊かで住みよい郷土づくりに貢献するため、日々邁進してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

5月例会

日時 平成29年5月10日(水)
19:00～21:00
場所 鳥取商工会議所 大会議室

5月例会は、会員交流増強委員会主幹により、自己PR・会員交流事業を開催しました。昨年からの会員数増加を受け、会員向けに自己PRを行っていただき、交流を深めるため企画しました。

発表は入会2年未満のメンバーが行い、「実は私〇〇なんです」のテーマに沿って発表していただきました。普段見られない姿を見られたのではないのでしょうか。一人一人個性のある発表に耳を傾け、笑いも交えてのPRでした。

会員交流事業では全員参加型のゲームを行いました。委員会メンバー以外での交流を目的としたゲームを行い、参加したメンバーには楽しんでいただけたと感じています。例会開始前にくじを引き、その日限りのチームを作りしました。スクリーンに出されるお題に対し、順番に整列をするゲームで、各チームで速さを競いました。ときには珍回答も飛び出し、終始笑いの絶えない交流事業ができました。

優勝チームにはさらに交流を深めていただける商品を準備しました。まずまず交流が増えたのではないのでしょうか。最後に田中監事より「今までにない例会だった。全員で盛り上がりよかったです」との言葉を頂き、YEGメンバーの更なる結束が高まったのではないかと感じました。



自己PRの様子



会員交流ゲームで大盛り上がり

袋川鯉のぼり撤収作業

5月7日、「袋川をほぐくむ会」「鳥取青年会議所（鳥取JC）」と共同して、袋川のこいのぼり撤去作業を行いました。当初の予定だった6日はあいにくの雨で、翌日の7日へ延期となりましたが当日は天気にも恵まれ、無事に終了しました。

袋川の水面の上を、勇壮と泳ぐ多くのこいのぼり。さまざまな種類のこいのぼりが掲揚されている風景は、今や袋川の春の風物詩となっています。

袋川を挟み、対岸の人と協力し、呼吸を合わせてこいのぼりを固定している紐を一つずつ外していきます。多くのこいのぼりが連なっているため、一つ一つがかなりの重さです。

しかしながら、経験者も多く、またYEG、JCともに協力しての大人数での作業だったため、撤去作業は当初の予定より早く終了しました。

鳥取の中心市街地を流れる袋川。川と共にこの町が発展してきた歴史があります。私達青年部はその指針の中に「文化を傳承しつつ新しい文化の創造に向かって歩を進めよう」を掲げております。

こいのぼり撤去事業については、青年部が長年携わっている歴史ある事業の一つです。私は、このように歴史に伝統を守り、次の世代へ繋いでいくことも、青年部の一つの使命であるといえるのではないかと参加して感じました。

来年もまた、袋川の水面の上を勇壮に泳ぐこいのぼりたちが、子供たちの笑顔をつくってくれることでしょうか。

多くの人の笑顔をつくってこいのぼり。

来年も楽しみにしています。

まち興し委員会 委員長 村田 浩一



撤収作業の様子



撤収作業に参加したメンバー

第1回鳥取YEG・鳥取青年会議所・東部青年中央会サッカー交流大会

5月7日(日)、ゴルフデンウィーク最終日。布勢総合運動公園多目的広場で、鳥取YEG・鳥取青年会議所、鳥取東部中小企業青年中央会の3団体でサッカー交流大会を開催しました。

今回の開催に至るまで、悪天候により2度中止になっていましたが、当日は素晴らしい晴天に恵まれ、遂にこの日を迎えることができました。

試合は17分ハーフで行い、日頃の運動不足を露呈しながらも、全員が全力プレーで戦い抜きました。ですが、思った以上の気温の高さ、コート内の広さに体力を奪われ続け、青年会議所戦(0-3)、中央会戦(2-3)ともに勝利することはできませんでした。

負けはしたものの、試合終了後は日々の業務からは得られない充実感に包まれ、皆が笑顔で大会を終えることができました。

交流大会終了後は、布勢運動公園横のツリースコアヒーで懇親会を開き、疲れを癒しながら、さらなる交流を深めました。

スポーツを通じて行う交流は、堅苦しくない雰囲気で行うことができ、大変有意義な一日になったと感じています。

第2回の開催は未定ですが、今後もサッカーに限らず、さまざまなことで会員間、他団体様とも交流を深め、輪を広げることにより、地域の発展に繋がっていくことを願っています。

サッカー同好会会長 福田 弘幸



白熱する試合



交流戦に参加したメンバー

交代会員



松村 泰介 君
(まつむらいたいすけ)
事業所名 日本海テレビジョン放送局
所属委員会 会員交流増強委員会

新入会員



真山 竜郎 君
(まやまたつろう)
事業所名 樹ファクトリーナイン
所属委員会 会員交流増強委員会



藤井 恵太 君
(ふじいけいた)
事業所名 株式会社中国四国鳥取支店
所属委員会 総務広報委員会



濱本 浩二 君
(はまもとこうじ)
事業所名 (株)インフロー
所属委員会 企画運営委員会